

数理 News 2016-1

東京大学大学院数理科学研究科

平成 28 年 9 月 30 日発行

編集：広報委員会

数理ニュースへの投稿先 : surinews@ms.u-tokyo.ac.jp

数理ニュースホームページ : <http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/publication/surinews.html>



海外大学との戦略的パートナーシップ構築プロジェクト

大学院数理科学研究科 研究科長

河野 俊丈

東京大学では、2014 年 10 月から海外のいくつかの大学との間の戦略的パートナーシップ構築プロジェクトを実施している。これは文部科学省の 10 年間にわたる補助金事業「スーパーグローバル大学創成支援」に基づくものである。戦略的パートナーシップとは、本学の教育研究の展開のため、限られた数の海外大学との間で、通常の大学間学術交流協定を超えた、緊密で創造的かつ柔軟で特別な協力関係を構築することである。東京大学とプリンストン大学との間では、すでに 2014 年 10 月に戦略的パートナーシップが締結されており、数理科学研究科でも平地健吾教授が組織委員となって、昨年度、戦略的パートナーシップの一環として、複素幾何学についての国際研究集会が開催された。プリンストン大学が戦略的パートナーシップを締結している大学は、東京大学を含めて三校である。これらの大学との間では、交流に必要な経費を互いに支出しあって、教育プログラムの共有も含めた緊密な関係が築かれている。

現在展開されている戦略的パートナーシップ構築プロジェクトは、このような本格的な戦略的パートナーシップに至るために実績を蓄積している段階であり、数理科学研究科では、カリフォルニア大学バークレー校、マサチューセッツ工科大学、ケンブリッジ大学、北京大学、ソウル大学との間のプロジェクトに関わっている。このうち、カリフォルニア大学バークレー校については、数理科学研究科がとりまとめ部局となっており、理学系研究科、カブリ数物連携宇宙研究機構と協力して、数学と物理学の分野横断的なプログラムを進めており、さらに、工学系研究科、社会科学研究所がこのプロジェクトに参加している。

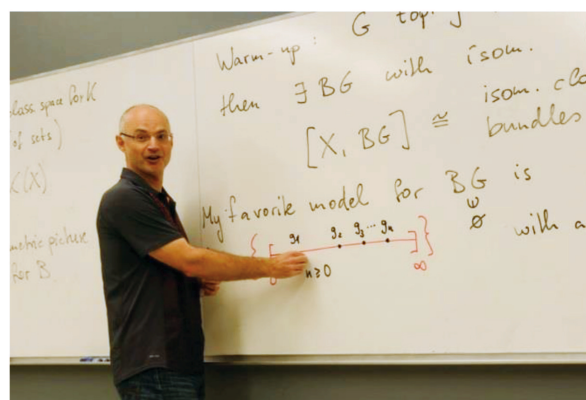
ここでは、カリフォルニア大学バークレー校との間のプロジェクトの遂行について報告する。このプロジェクトでは、研究者の交流に加えて、双方の大学で毎年スクールを開催すること、講師を招聘して集中講義を行うことを重要な柱としている。2015 年には、まず 7 月 21 日から 31 日にカブリ数物連携宇宙研究機構において、Tokyo-Berkeley Summer School "Geometry and Mathematical Physics"を開催した。このスクールに、バークレーからの 5 人の学生に加えて、数理科学研究科が部局間交流協定を締結したモスクワの Higher School of Economics から 5 人の学生を招聘した。東京大学からは約 20 名の学生がスクールに参加した。スーパーグローバル大学創成支援では、原則として学生の旅費は支出できないため、数物フロンティア・リーディング大学院プログラム (FMSP) と日本学生支援機構 (JASSO) からの補助を用いた。また、2016 年 2 月 8 日から 19 日にバークレーで Berkeley-Tokyo Winter School "Geometry, Topology and Representation Theory"を開催した。このスクールのバークレー側の講師は、M. Hutchings, V. Shende, P. Teichner, J. A. Wolf の各氏で、東大側からは、古田幹雄、二木昭人、河澄響矢、小林俊行の各氏に講演していただいた。また、加藤

晃史さんには組織委員のお一人として大変お世話になった。東大からは 20 名の学生が参加した。スクールでは、学生セミナーの時間をもうけ、東大とバークレー双方の学生がプレゼンテーションを行った。スクールも 2 週間目くらいに入ると、学生同士の議論もふえて、参加した学生にとっては貴重な体験となった。この時期のスクールは、バークレーでの学期中ということもあって会場の確保には苦労した。とくに、学期の初めは講義を履修する学生の数が確定しないため、教室の予約は直前にしかできないそうである。結局、このスクールは数学教室のあるエバンズホールのCOMMONルームで行わせていただくことになった。COMMONルームでは、15 時からティータイムがあるため、その時間には、多くの研究者がCOMMONルームを訪れる。COMMONルームでスクールを開催することによって、自然にさまざまな研究者と交流できたことは大きなメリットであった。また、2015 年度は N. Reshetikhin 教授による集中講義 "Introduction to BV quantization" を 10 月 13 日から 16 日に数理科学研究科で行った。これは、数学と物理にわたる分野横断的な講義であり、カブリ数物連携宇宙研究機構にもテレビ会議システムで講義を中継した。また、8 月 24 日から 26 日に理学系研究科で P. B. Stark 教授による集中講義 "Probability and statistics for earth and planetary scientists" を行った。Stark 教授はバークレーの統計学科の主任である。このような自然科学と数理統計学についての講義を東京大学で行っていただいたことの意義は大きいと考えている。本年度は、11 月 14 日から 23 日にバークレーでの Berkeley-Tokyo Autumn School -- Quantum Field Theory and Subfactors のほか A. Ogus 教授による集中講義、来年 1 月の数理科学研究科における偏微分方程式についての研究会などが予定されている。

来年度以降は、現在の採択プロジェクトから、成果や交流状況等に基づき、全学的に戦略的パートナーシップ校として支援すべき相手大学を約 10 校選定することになっている。そのための重要な条件としては、研究協力を教育プログラムと絡ませて、一体感があるプロジェクトに仕上げて成果を出していけるか、分野をまたぐ multi-discipline の共通的な課題設定が、双方にメリットが出る内容として、中長期的に進められうるか、などが問われている。バークレーとの間では、数学と物理を中心とした分野横断的な交流が遂行されているが、これをさらに全学的なプロジェクトにするためには、今後、例えばバークレーの Center for Japanese Studies との連携なども視野に入れていく必要があると考えている。



Berkeley-Tokyo Winter School



Peter Teichner 教授の講義



COMMONルームにおけるティータイム

人事ニュース

平成28年3月1日～平成28年8月31日

【教員】

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
28.4.1	米田 剛	大学院数理科学研究科 准教授	東京工業大学大学院理工学研究科 准教授
28.4.1	北山 貴裕	大学院数理科学研究科 准教授	東京工業大学大学院理工学研究科 助教
28.4.1	間瀬 崇史	大学院数理科学研究科 特任助教	東京大学大学院数理科学研究科(日本学術振興会特別研究員)
28.4.1	柏原 崇人	大学院数理科学研究科 特任助教	東京工業大学大学院理工学研究科 科学研究費研究員
28.4.1	中安 淳	大学院数理科学研究科 特任助教	東京大学大学院数理科学研究科(日本学術振興会特別研究員)
28.4.1	田中 雄一郎	大学院数理科学研究科 特任助教	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所(日本学術振興会特別研究員)

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
28.3.14	Isakov, Victor	ウイチタ州立大学教授	大学院数理科学研究科 特任教授
28.3.31	石井 志保子	定年退職	大学院数理科学研究科 教授
28.3.31	田中 仁	筑波技術大学 講師	大学院数理科学研究科 特任助教
28.3.31	久保 利久	龍谷大学 専任講師	大学院数理科学研究科 特任助教
28.3.31	神吉 雅崇	関西大学助教	大学院数理科学研究科 特任助教

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
28.4.1	権業 善範	大学院数理科学研究科 准教授	大学院数理科学研究科 助教

【職員】

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
28.4.1	岩田 恭味	教養学部等教務課数理科学教務係長	工学系・情報理工学系等学務課専攻チーム係長
28.4.1	清弘 ひかり	教養学部等図書課数理科学図書係長	情報学環・学際情報学府図書係主任
28.6.1	三浦 稔子	大学院数理科学研究科 学術支援職員	
28.6.1	吉平 保希	教養学部等総務課数理科学総務係 事務補佐員	

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
28.3.31	佐藤 貴一	理学系研究科等学務課教務チーム係長	教養学部等教務課数理科学教務係長
28.3.31	細川 芽	国立女性教育会館情報課長	教養学部等図書課数理科学図書係長
28.3.31	谷崎 典子	退職	大学院数理科学研究科 学術支援職員
28.3.31	田中 宜子	退職	大学院数理科学研究科 学術支援職員
28.3.31	清水 菜穂子	退職	大学院数理科学研究科 学術支援職員
28.7.31	松本 明子	退職	大学院数理科学研究科 特任専門職員

一新任紹介・教員一

米田 剛 准教授

この4月から東大数理に着任した米田剛です。宜しくお願ひ致します。2009年3月に東大数理で学位を取得し、その後はアリゾナ州立大、成均館大(韓国)、ミネソタ大、ヴィクトリア大(カナダ)、北海道大、東工大と異動を繰り返してきました。どのくらい転々としているかを、保育園時代から振り返ってみました。連続3年より長く所属した機関が一つもないことに気づきました(小学生時代は、3年生の2学期から、父の仕事の都合で、アメリカに1年間住んでいましたので、2年半-1年-2年半と分断されてしまいました)。このようにずっと転々としてきましたが、今回こそ長期的に(少なくとも3年より長く)所属したいと願っております。

私の研究テーマは、ミレニアム懸賞問題の一つを提供している Navier-Stokes 方程式や、Euler 方程式の数学解析です。これまでは、実解析的手法に没頭してきましたが、最近「実解析的手法にとどまらず、代数、幾何、数値解析に至る様々な研究 field を視野に入れないと、この100万ドル問題は解けないのではないか」と感じるようになりました。その100万ドル懸賞問題に(stickすることなく軽快に)挑む学生が一人でも増えることを願いつつ、日々研究教育に励んでおります。より具体的には、学部生から大学院生に至る様々なフェーズで、その未解決問題の本質が最短距離で伝わるような魅力的な講義・研究指導が出来るように日々鍛錬しています。

北山 貴裕 准教授

本研究科では3年前までも特任助教としてお世話になっており、その後、東京工業大学に転出してまいりました。数理の一員として再びお迎えいただけましたことを大変光栄に思います。以前にも増して、朝夕草花が目目を惹く数理の小径を抜ける喜びを感じるとともに、新たに職務にあたる責任の大きさに日々身が引き締まる思いです。

専門はトポロジーで、最近では高次元線形表現のモジュライ空間の幾何学を低次元トポロジーに応用する研究の基礎付けを進めております。3次元多様体の基本群の研究で得られたアイデアを一般の離散群の場合に抽象化し深化を図ることも課題です。以前、玉原国際セミナーハウスで FMSP Student Session の運営に携わった際には、大学院生の皆さんとの自発的かつ活発なセミナー交流を通して、発見や感動を共有するとともに充実した時間を過ごせたことをよく覚えています。院生室やコモンルームに溢れる皆さんの熱意に負けないように、私も成長し続けていきたいです。

駒場を離れていた期間は長くはないとはいえ、学事暦の変更などの教育改革に伴う諸々の変化をはじめ、なかなか馴染めていないことも多いです。しかし、数理を更に盛り上げるための一助となるように、初心を忘れず、教育・研究・運営活動に一層努めたいと考えております。改めまして皆様どうぞよろしくお願い致します。

間瀬 崇史 特任助教

2016年4月から数物フロンティア・リーディング大学院(FMSP)の特任助教として着任した間瀬です。この3月までは、東大数理で博士課程の大学院生と FMSP のコース生をやっていました。教員になっても生活自体にそれほど変化がないため、いまだに学生気分が抜けません。数理の教員の中で現在最年少であり、特に大学院生の方々とは年齢もあまり変わらないはずなので、気軽に話しかけてもらえればと思います。

私の研究の専門は可積分系です。最近では、特に離散系における可積分性判定法に興味を持っています。可積分系とは、おおざっぱに言えば何らかの意味で非常によい性質を持つ方程式の総称ですが、そもそも離散系においては可積分系の厳密な定義はまだ確立していません。そのため、離散系の可積分性をどのように定義すればよいのかということも含めて研究をしています。

FMSP では、今年度から社会数理実践研究など新たな取り組みが始まります。私自身のコース生としての経験も生かしながら活動に取り組んでいきたいと思っています。よろしくおねがいします。

柏原 崇人 特任助教

2016年4月1日付で特任助教に着任いたしました柏原崇人と申します。本学で博士課程を修了後は、ドイツのダルムシュタット工科大学・岡山大学・東京工業大学でポスドクをしておりました。このたび、2年ぶりに東大数理に帰ってくることができ、大変感慨深く思っております。

私が学生だったころと比べて最も変わったと感じたのは、やはり4ターム制へ移行したことでしょうか。特任助教が学生からの質問を個別に受け付ける数学学修相談室も昨年度から始まった試みですが、学生の皆さんが抱く疑問をダイレクトに知ることができ、私自身にも有益になっております。

研究の方に関しては、私は微分方程式（特に、Navier-Stokes 方程式などの流体の方程式）の数値解析を専門にしております。産業・医療・環境といった現場の問題を記述する数理モデルとして微分方程式は有力ですが、その解が厳密に求まることは極めてまれです。そこで、微分方程式を離散化して数値シミュレーションを行うことが一般的になっています。このような離散化プロセスを数学的に正当化し、その理論を数値実験で実証することに興味を持っています。本年度から「社会数理実践研究」が始まる等、数物フロンティア・リーディング大学院(FMSP)も大きな転換点を迎えようとしています。私も微力ながら FMSP に貢献できるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

中安 淳 特任助教

4月に着任いたしました中安淳と申します。昨年度までは本研究科の学生（より正確には昨年度9月に学位取得しその後半年間はポスドク）で駒場キャンパスに通う日々も10年目になりました。引き続き、様々な分野の研究者が集まり蔵書や電子ジャーナルが充実したこの数理科学研究科で研究を続けられることを光栄に思うとともに、教員としての責務もあり身を引き締めて職務に取り組んでいきたいと思ひます。リーディング大学院に学部教育改革と現在は大学教育の変革期にあると思ひますが、私自身が数物フロンティア・リーディング大学院の修了生として学んだことを伝えていく所存です。

専門は偏微分方程式論で、特に粘性解理論を用いてハミルトン・ヤコビ方程式などの非線形性の強い方程式について研究しています。目下のところネットワークのように分岐のある空間やフラクタル上の非線形方程式まで理論を応用することが目標です。離散的アプローチや特異極限法など試したいことは多くあり、色々な分野の方々と議論をさせていただけると幸いです。駆け出しで至らない点もあるかと思ひますが、どんどん勉強したいと思ひます。皆様ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。

田中 雄一郎 特任助教

4月に特任助教として着任いたしました。学部・大学院とこちらで非常にお世話になり、その後学振 PD として九州大学 IMI に1年間、短い間ではございましたがたくさんお世話になりました。学生時代とポスドクとしての1年間と、周りの方々ととんでもなく恵まれまして、とつても良い環境で勉強・研究に励むことができ、大変有り難く思っております。そしてこの度またお陰様で東大数理にお世話になる幸運に恵まれ、早速教育に携わる機会を頂きました。どうにも頂いてばかりで少しもご恩を返せずにおりますことに恐縮しております。そして少しもお返し申し上げる気配のないままに原稿を書いている今日、また周りの方々のご厚意に甘えておりますことに、有り難く感じさせて頂く一方、情けなく思ふ次第であります。

以前は無かったように思ふのですが（勘違いかも知れませんが）、コモンルームにある長いソファに時折お世話になっております。最低限の体力はつけなければ、と思ふのですが、無精が祟って改善に取り組めておりません。また、居室の大掃除も実行できていません。

まだまだ未熟で至らぬところが多々ございますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

—新任紹介・職員—

岩田 恭味 数理科学教務係長

4月1日付けで、佐藤教務係長の後任として着任いたしました岩田と申します。昨年度まで工学系研究科学務課専攻チームで勤務しておりましたので、主に専攻・学科の教務系業務を担当しておりました。このたびは研究科全体の教務系業務も担当することになり、初めて取り組むことも多々ございます。大学院の数学・数理科学教育だけでなく、大学前期課程・後期課程の数学教育も全面的にご担当されている先生方のお役に立てるよう、精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

清弘 ひかり 数理科学図書係長

4月に情報学環より数理科学図書係に異動してまいりました。これまで総合図書館、工学部、社会科学研究所と本郷内を転々としておりましたので、この度が初めての駒場勤めです。当初は渋谷の混雑に翻弄され通勤が大変でしたが、ようやく人の流れにも乗れるようになり、正門前から道沿いに咲く季節の花々を楽しみに毎日通っております。

担当業務は図書・雑誌・目録・閲覧サービスと幅広く経験を積んでまいりました。数理科学研究科や駒場のことは、まだまだ分からないことばかりですが、これまでの経験を活かし、少しでもお役に立てるよう尽力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

三浦 稔子 事務補佐員

6月1日付けで数理・FMSPに採用となりました三浦稔子と申します。

昨年10月より今年5月まで、派遣職員として主任室Iに勤務しておりましたが、この度FMSPで経理等の仕事をさせていただけることになりました。不慣れなことが多く、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、皆様のお役に立てるよう努めてまいります。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

吉平 保希 事務補佐員

6月1日付けで吉田研究室の事務補佐員に採用いただきました。名前は「ほまれ」と読みます。珍しい読み方ですが、サッカー元代表の澤穂希選手の活躍で「ほまれ」という名が広く知られたことを喜びました。

英国大学院を今年卒業し、学生生活を終えたところです。留学中、大学から多くのサポート・アドバイスを得たこともあり、教育の場での仕事に携わりたいという願いが起こされました。帰国してからは留学を目指す学生を対象に実践英会話を教える機会もありました。

自然豊かな伝統のあるキャンパスで、先生方や学生の傍らでお仕事をするのは大変楽しいです。不慣れなこともあり、まだ至らない点も多いですが、よろしくお願いいたします。

一数理トピックス

平成 27 年度数理懇親会

平成 28 年 3 月 22 日、ファカルティハウスのセミナー室に、8 名の名誉教授を含む約 50 名の教職員が集まり数理懇親会が盛大に行われました。今年度の世話人の山本昌宏教授の開演の辞で始まり、坂井秀隆准教授の司会で進められました。平成 24 年度より 4 年間研究科長をされた坪井俊教授からご挨拶がありました。新研究科長の河野俊丈教授からは今後の抱負が語られました。数理を去る 5 名の教職員が、挨拶をされました。定年退職をされた石井志保子教授は、女性数学者として定年退職できることを誇らしく思っていることや体を壊しながらも研究に没頭したこと等をお話いただきました。数理を去られる方との別れを惜しみつつ閉会となりました。(撮影：磯山総務係長)



石井志保子教授



懇親会集合写真

学位記伝達式

平成 28 年 3 月 24 日に大学院数理科学研究科修士・博士課程学位記伝達式が、平成 28 年 3 月 25 日に理学部数学科学学位伝達式が、大講義室で行われました。両日約 40 人の修了生が出席しました。坪井俊研究科長と金井雅彦専攻長から修了生に学位記が授与されました。



坪井研究科長と卒業生



平成 27 年度博士・修士課程修了者



平成 27 年度理学部数学科卒業生

入進学式

平成 28 年 4 月 4 日、大学院数理科学研究科修士・博士課程入進学式が大講義室にて行われました。河野俊丈研究科長、二木昭人専攻長の式辞に続き、藤田宏名誉教授から祝辞をいただきました。平成 28 年度は、修士課程に 40 名が入学し、博士課程には、37 名が進学しました。



藤田名誉教授の祝辞

玉原セミナーハウス環境整備

平成 28 年 7 月 24 日（日）・25 日（月）の 1 泊 2 日の日程で、「玉原高原遊歩道等の草刈り作業」を行いました。

数理の先生、教養学部等事務部各課からの総勢 17 名で、セミナーハウスの敷地及び遊歩道の草刈り、側溝に溜まった落ち葉や泥の除去等を行いました。

また、恒例となっている「夜の懇親会」においては、職員係 七尾さんによる笙（しょう・雅楽の楽器）という大変珍しい楽器の演奏があり、玉原セミナーハウス全体が荘厳な雰囲気に包まれました。

その後も、学生支援係 石井さんによるピアノ演奏と熱唱、図書係 清弘さんによるピアノ演奏などが続き、新たな個性のぶつかり合いの場となりました。（文、撮影：磯山総務係長）



笙の演奏



草刈の様子



ロッジの前で集合写真

夏の懇親会

平成 28 年 7 月 21 日、コモンルームで夏の懇親会が開催されました。河野研究科長による開会の挨拶、二木専攻長の音頭で乾杯が行われた後、にぎやかに会食と歓談が始まりました。ビールサーバーで提供される生ビールが人気で、長い列ができていました。今年は、春の懇親会に引き続き、数理有志による演奏会が行われました。春の懇親会で演奏された河野研究科長（クラリネット）と磯山総務係長（キーボード）に、新任秘書の吉平さん（フルート）と研究員の植木さん（バイオリン）が加わった 4 人のアンサンブルで、すばらしい演奏を堪能しました。その後、恒例のスイカ割りが行われました。雨が心配されましたが、幸いこの時間にはほとんど止んでおり、留学生を中心に学生達が順番に目隠しをして、長い棒をスイカ目指して振り下ろしました。割られたスイカは、きれいに



切り分けられ、みんなでおしくいただきました。（文責：時弘哲治）



オープンキャンパス

2016 年度理学部オープンキャンパス報告

平成 28 年度理学部オープンキャンパスは、7000 人を超える驚異的な来場者数を記録した。数学科会場にも常時多くの来場者があり、恒例のポスター・数学書の展示、DVD 上映に熱心に見入っていた。そこへ TA 学生がうまく話しかけてくれ、来場者との活発な交流が生まれていた。数学好きの高校生が多く来場していたのはもちろんであるが、なかには「数学が嫌いな自分がどうしたら数学が好きになれるのか？」を真剣に聞いてくる高校生もおり、それに数学好きの TA が熱心に答えた結果、「数学好きな人の意見が聞けて見方が変わりました」と、とても満足して帰って行ったのには感動した。また、高校生に難問を突き付けられた TA が、高校生と議論しながら、最終的にその問題を解決するという、数学科の日常さながらの光景も見られた。企画講演も行われ、博士課程一年生の加藤本子さんによる講演「無限の対称性をとらえる方法--タイル張りからカントールの塵まで--」（於小柴ホール）、斉藤義久先生による講演「分割をめぐる--さんすうから研究の最前線へ--」は、いずれも立ち見ができるほどの盛況ぶりで、講演後、多くの高校生が熱心に質問していた姿が印象的であった。本年度の新機軸としては、毎年、女子高生の来場者が多いと感じていたので、3 月末の女子中高生向け講演会「数学の魅力」や、佐々田槇子先生が中心となって運営されているホームページ「数理女子」を積極的に広報することにした。佐々田先生自身も参加して下さり、女子高生と積極的に交流していただいた。なお、展示したポスター画像の多くは、河野俊丈先生がポストカード作成のために撮られたものをご提供いただいた。また、先生がヤマダ精機と共同で作成された「クレブシュ 3 次曲面」のアルミ模型も展示したところ、その模型に感動した女子高生がわざわざ友達に見せたいがために戻ってきたりと、大変な関心を集めていた。オープンキャンパスイメージコンテストで毎年優秀

賞以上を獲得している河野先生の本年度の作品は「4次元クライン群の極限集合」であったが、見事、2年ぶりに最優秀賞に輝いた。以上、断片的ではあるがオープンキャンパスの報告をさせていただいた。オープンキャンパスでは、毎年、来場者の数学に対する関心の高さを実感して驚くのであるが、この関心の高さが、将来多くの学生の数学科進学につながることを切に願うばかりである。

(文：高木寛通准教授 撮影：麻生和彦)



博士課程一年生の加藤本子さんによる講演

理学部イメージコンテスト 2016 最優秀賞

東京大学大学院理学系研究科・理学部において日々の研究の一コマにある美しい瞬間を写真に収めて競う「東京大学理学部イメージコンテスト 2016」が 2016 年 8 月 3・4 日の両日、東京大学理学部オープンキャンパスにて催されました。東大理学部の学生、教員 19 作品が展示されました。来場者、スタッフや関係者による投票により、上位 3 作品が優秀賞に選ばれました。最優秀賞に河野俊丈教授の作品が選ばれました。

「4次元クライン群の極限集合」



4次元空間の点についてメビウス変換という操作を何度も施して得られる極限の集合を境界の3次元空間に描いた模型です。クリスタルガラスの中にレーザー光でプロットする方法で制作しました。(数理科学研究科 河野俊丈教授)

～理学部ホームページより一部抜粋～

編集後記

ルマン(フランス)での会議に参加しました。Statistique Asymptotique des Processus Stochastiques (SAPS)は確率過程の統計学に関する国際会議です。1997年から始まり2015年に第10回をもって一旦終了したものの、継続を求める多くの声に応え、この会議を主宰し分野の創始者の一人である Yury Kutoyants 教授の70歳を祝う会議がこの度開催されました。会議の歴史を振り返る場面も多く、古い写真には懐かしさとともに、当然ながら参加者の変容に驚かされましたが、メンバーによる今日標準となっている理論は幾つもあり、分野の変容と、数学領域を超えた応用が行われるようになっている現実はより大きな驚きで、改めてそれを認識する機会になりました。会議後入ったパリでは数日前に寺院でのテロ未遂と思われる事件がありました。実は昨年11月の事件の際もここにいたのですが、否応無く社会の現実を突きつけられます。

広報委員長 吉田朋広
数理ニュース編集局 金子道子